

2012 年度一橋大学体育会バレーボール部  
中国海外遠征報告書



文責：商学部 4 年 主将 梅原宏樹

法学部 2 年 長沖佳郁

## ～目次～

I、遠征日程詳細

II、事前勉強会について

III、部員の感想

4年 後藤俊一、3年 笠松茜、2年 池川悠、1年 牧村優美

IV、今回の遠征の意義について

V、今後の展望について

## I、遠征日程詳細

～1日目 8月16日(木)～

9:10 羽田空港から北京に向けて出発(JAL23便)

12:20 北京に到着

その後バスで北京市内へ移動し、現地のガイドの案内のもと天安門広場・故宮を観光。観光後、17:00頃に宿舎に到着し、夕食は宿舎周辺で自由にとり、就寝。



～2日目 8月17日(金)～

8:30 宿舎出発。

その後地下鉄で蘇州街駅から亮馬橋駅に移動。亮馬橋駅からバスで日本大使館に移動した。尖閣問題で治安が心配されたが、無事に大使館に着くことができた。大使館では、まず山崎公使から外交官の視点から日本と中国の関係を説明していただき、その後大使館の中を見学させていただいた。

その後地下鉄で建国門駅に向かい、近くのデパートにて班ごとに自由に昼食をとった。昼食後デパート内のパナソニックの展示店を見学した。ガイドの案内のもと最新の家電製品を見学して回った。その後地下鉄で国貿駅に移動し、三井物産北京支店に訪問した。三井物産では、岡様より三井物産の創業から現在に至るまでの沿革を、VTRを交えながら説明していただいた。これから就職活動を迎える3年生にとっては良い刺激になったという声が多かった。その後は宿舎に帰り部員各々で夕食をとり、就寝。



～3日目 8月18日(土)～

午前中は中国人民大学（以降、人民大）の岳教授より、中国国内の経済格差についてレクチャーをしていただいた。普段の新聞やニュースでは知ることができない中国の実情を知ることができた。

午後は人民大のバレーボール部員との意見交換会を行った。お互いの自己紹介に始まり、大学生活のことや授業、将来の夢や、お互いの国の捉え方などを質問、発表し合うことで、それまでとは違う学校生活やバレーに対する考え方を養うことができた。最後にはお互いに記念品を交換し合い積極的に交流することができた。



～4日目 8月19日(日)～

午前中は人民大のバレー部と交流戦を行った。一橋、人民大学ともに2チーム出し合って三セットマッチの交流試合を実施、最後にレギュラー戦を行った。交流試合では、部員全員が出場して試合を行った。試合の結果は以下の通りである。

<交流戦>

一橋A 0-2 人民A (20-25、15-25)

一橋B 0-2 人民B (19-25、21-25)

一橋B 0-2 人民A (14-25、19-25)

一橋A 3-2 人民B (25-20、18-25、15-12)

<本戦>

一橋 0-2 人民 (13-25、16-25)

交流戦のあとは、人民大バレー部の学生と食事会を行った。同じテーブルで食事を共にすることで言語の壁を越えて、心から交流できたように思う。



～5日目 8月20日(月)～

午前中は宿舎を後にし、万里の長城を観光した。予想以上に道なりが厳しく、部員全員が息を切らしていた。改めて中国のスケールの大きさを実感することができた。その後最後の昼食をとり、お土産を見て回った。そしてバスで空港に向かい、空港内で最後にお土産を見て回った。

16:20 北京から羽田に向けて出発。

21:05 羽田空港に到着。



## II、事前勉強会

### 【目的】

前回の遠征の反省で、事前に勉強して行かなかったために遠征が受け身になってしまったという意見が多かったため、今回長沖を担当に勉強会を企画するに至った。

最優秀グループには賞品を贈呈するなど、勉強会に対するモチベーションが下がらないようなコンテンツも盛り込んだ。

### 【テーマ】

- ①中国の歴史(アヘン戦争～WWⅡ)、②中国の歴史(WWⅡ～現代)
- ③現代の日中問題(領土・歴史認識)、④現代中国の国内問題
- ⑤中国の文化(言語・マナーetc)

### 【日程】

6/10(土)…テーマは①と②、6/30(土)…テーマは③と④、7/14(土)…テーマは⑤

いずれも 14:00～16:00

### Ⅲ、部員の感想

4年 後藤 俊一

この度無事に中国遠征を実現することができましたが、この遠征は学生だけの力では到底実現させることはできなかったと思います。如水会やOB会の皆様、中国人民大学、中国交流センターの志波様や賈申様、他にも名前を挙げればきりがありませんが、関わってくださった数多くの方々がご支援・ご協力くださったおかげで遠征を成功させることができました。まず始めにこの場をお借りして御礼を述べさせていただきます。誠にありがとうございました。

全体を通しての感想ですが、実際に中国へ足を運び、現地の方々と交流することで、遠征前に抱いていた偏見や先入観がいかに大きかったかということに気がつきました。以前から日本と中国の関係は良好とは呼び難いものであり、昨今の尖閣諸島の領有問題で大きく揉めている中での訪中ということもあり、中国人は皆強い反日感情を抱いているのではないかと考えていました。また私自身も中国に対するイメージは必ずしも良いものだけではありませんでした。ところが討論会、試合、食事会を通じて人民大学の学生は私たちに対しても非常に紳士的かつ友好的に接してくれました。ある人民大の学生は、飲み会の席での日本の文化を教えたところ、すぐさま取り入れてお互いの文化を利用して飲み会を盛り上げようと努めてくれました。最終的にはお酒の力も相俟って飲み会は決して想像出来なかった程の大盛り上がりとなり、交流は大成功に終わりました。またそれだけでなく、地下鉄にのっていた際にある学生から「中国では情報が制限されているから、尖閣諸島のことについて知っていることがあれば教えてほしい。」と聞かれました。自国で報道される情報には制限があることを分かった上で、積極的に日本での情報についても尋ねて理解しようとする姿勢に驚いたとともに、感心するばかりでした。ただ、しっかり勉強していったにもかかわらず、いざ話してみると自分の意見をしっかりと伝えることができなかつたことは悔しかったです。

今回の遠征は前回の豪州遠征の反省を活かし、自主的に中国に関する理解を深めようと勉強会を開催し、ある程度知識を深めてから臨むことができたので、とても有意義なものになりました。私自身1年時と2年時の2年間中国語を勉強していたので、拙いながらも中国語で質問することができたりと勉強の成果を少しは出すことができたと思います。また仲良くなった学生とメールアドレスも交換することができたので、今後も継続して関係を保ち続けていきたいです。今回の遠征をより意義のあったものにするためにも、後輩には今後も海外遠征を継続してもらいたいと思いますし、来年からはOBの一員としてそうできるような微力ながらも恩返ししていきたいです。

今回訪問した時期は、尖閣諸島の問題が中国でも、日本でも大きく取り上げられている時期でした。初日、バスで大学構内にはいったのですが、日本人がたくさん乗車していたため警備員に呼び止められるという出来事がありました。到着して早々尖閣問題の盛り上がりを感じました。さらに日本大使館から、「日本人の集団での目立つ行動は控えるように」との警告がなされ、2日目の日本大使館への訪問も一時は中止になるのではないかと心配されましたが、大使館の方々が地下鉄の駅の近くまで車で迎えに来て下さり、裏門から無事に大使館に入館、見学することができました。政治問題の緊迫を直接感じたこれらの出来事は、一生記憶に残るものだと思います。

そして、今回の遠征で最も心に残ったのが、中国人民大学のバレーボール部の方々との交流です。尖閣諸島の問題もありましたし、中国人は日本人に対してあまり好意を持っていないなどの話を日本で聞いていたこともあり、ちゃんと交流できるのか、とても不安でした。しかし、実際にはよく笑い、たくさん質問をしてくれる社交的な方々でした。3日目の討論会では、大学生活、バレーボール、将来などについてお互いに話し、生の学生の声の声を聞くことができました。4日目の試合では平均195センチの高さの中国人民大学チームの攻撃の迫力はすごくて、さすが中国3位のチームだな、と思いました。夜の食事会では、中国式の乾杯（乾杯を交わしたら飲み干す）で、大変盛り上がりました。国を越えて、“同じ学生として”とても仲良くなれました。

この5日間の中で、中国と日本の違いにたくさん触れることができました。中国は、英語が全く通じないお店も多く、料理の注文がとても大変で、中国で暮らすためには中国語が必須だということを感じました。トイレが汚いところが多く、日本のインフラがいかに整っているのかを改めて知りました。大気汚染もすごくて、衝撃を受けました。今回肌で感じた中国は私にとってとても影響のあるもので、視野が広がりました。

最後に、3、4年生にとっては二回目となる海外遠征でしたが、今回は海外遠征担当をしていたこともあり、より記憶に残るものとなりました。30人という大所帯での地下鉄の乗り継ぎや早朝の集合など、不安なことばかりで、何か事件が起きてもおかしくないと思っていました。しかし、日頃のチームワークが起因したのか、何事もなく、誰ひとり怪我もなく、無事に北京遠征を終えることができ、大変嬉しく、ほっとしています。また、以前の豪州遠征の反省を生かし、事前勉強会をしたり、学生同士の交流を増やしたりしたことで、より充実したものになったのではないかと自負しています。このような、個人旅行では実現できないたくさんの貴重な体験をできたのも、如水会のご支援のおかげです。本当にありがとうございました。



私は、今回バレ一部の海外遠征という形で、初めて中国の北京に行かせていただきました。私にとってはこれが初の海外ということもあり、中国で多くの見たことがないものを見ることができたり、多くのことを学ぶことができるという楽しさもありましたが、言語の壁など多くの不安も持ち合わせていました。

そんな期待半分、不安半分の海外遠征でしたが、北京に着いて生活を送るうちに、多くの驚くべきことがありました。まず第一に大気の汚さです。日本の新宿や渋谷などといった都市の中心部は、一橋のある国立に比べればとても息苦しいですが、その中心部にもまして、北京の大気が汚染されており、常に、霧が立ち込めてあたりがよく見えなような状態でした。第二には、尖閣諸島の問題などで不安な日中関係が続く中、多くの反日デモを見ていたのとは裏腹に、親日派、というか日本人に親切でかつ勇気を持った中国人がいたことです。たとえば、二日目に日本大使館を訪問するために、地下鉄に乗って目的地に向かっていたら、部員の一人が日本語で中国人に「今日は危ないから行かないほうが良いよ」というような注意をやさしくしてくれた上に、その中国人が高野山にいたときの思い出話までしてくれたそうです。また、別の日に地下鉄で宿舎に帰っている途中で、北京大学の学生に「くれぐれもきをつけて」という内容のことを英語で言ってもらったりと、多かれ少なかれあった不安が少し和らいだ瞬間でした。第三には、人民大の学生と僕らの同じ部分や、相違点を知ったことです。例えば、飲み会が好き、彼氏彼女を大切にするなどの他愛もないことから、僕らも感じていたように、「戦争」や「尖閣諸島」の問題に関しては、中国の学生も触れたがらないということまでさまざまな共通点を見出すことができました。特に、戦争や尖閣諸島の問題は、「日本人が悪者」のような発言をされると確信していた分、とても大きな驚きでした。また、相違点としては、中国は「一人っ子政策」を行っているため、ほとんどが一人っ子で、討論会の中で「兄弟はいるの？」という質問には、とても深い意味がこめられているんだと感じました。第四には、人民大の選手の身長の高さです。4日目の交流戦の際に、エースの人は胸までネットの上に出ていたり、またほんのちょっと跳んだだけでブロックされてしまったりと、ブロックフォローなどのとてもいい練習になりました。

ほかにもここには書ききれないほどの貴重な経験を多くさせていただきました。特に、海外に行くのが初めての私にとっては、海外へいくことの敷居を下げられたという大きなものを得られました。このようなことは、部内の海外遠征担当の方々、部長の石川先生、OBの方々、さらには如水会の方々の支援なしには到底実現できるものではありません。この場で簡素ではありますが、お礼を申し上げたいと思います。

今回バレーボール部の海外遠征が私にとって初めての中国訪問でした。実際に北京の街に到着すると、日本で想像していたものとは違い様々な驚きがありました。まず空気がよどんでいることです。これは大気汚染が原因となっているそうです。そして地下鉄が一律わずか2元（日本円で30円ほど）で乗れるということです。これは国内の自動車の量が増えたために、国が国民に公共交通機関を使うことを推奨するためにとった政策だそうです。上記の二点は私が体験した中でも最も驚いたことの二つですが、このような中国国内の現状は実際に訪問してみないとわからなかったことだと思います。

さて、海外遠征での細かい出来事についてです。1日目は天安門の大きさと故宮の広さにただただ驚くばかりでした。ガイドの方の説明を聞きながら故宮の中を歩いたのですが、高校生の時に勉強した中国史に出てくる人物がガイドの方の説明の中に多数現れ、いままで遠い国の出来事としてなんとなく理解していた中国の歴史が身近に感じられとても貴重な体験でした。夜は同期のみんなと大学の近くのレストランで食事をしたのですが、普段第二外国語として勉強しているはずの中国語がいざとなると全く口から出て来ず自分の勉強不足を反省しました。みんなでジュースチャーなどを使いながらなんとか注文して出てきたうどんのような食べ物はとてもおいしかったです。

2日目は朝から日本大使館に訪問させていただいたのですが、前日まで尖閣諸島問題に関しての反日デモがあったということで終始緊張しながらの移動でした。大使館では山崎公使にお話を伺い大使館内を見学しました。そのあと訪問した三井物産北京支店ではお話を伺えたのはもちろんですが、そのあとの質問の時間にもうすぐ就職活動を控える3年生の先輩と就職を控えた4年生の先輩の質問の内容に驚き、やはり先輩方のような質問をできるように私も日々勉学に励まなければならないと思いました。

4日目の人民大学との交流試合では中国3位という相手チームの選手の体の大きさに圧倒されましたが、一橋も1勝を挙げることができました。食事会では自分のたどたどしい英語を使いながらも人民大学生との会話を楽しめたことが本当にうれしかったです。

このような中国訪問という私の人生で大きな思い出、貴重な体験となった機会を与えられたことに本当に感謝しています。遠征を支えてくださったすべての方に感謝します。ありがとうございました。

#### IV、今回の遠征の意義について

今回の中国海外遠征では体育会バレーボール部の一員として、また1人の大学生としての両面において大変多くの収穫があった。まずバレーボール面においては、自分達の弱点を再認識し、これから秋リーグに向けて調整していく点が明瞭になったことが収穫として挙げられる。具体的には、疲れた時にワンタッチを狙うブロックがなかなか出ない点や、サーブの精度、威力ともに向上する必要な点である。また、終盤の勝負どころでレフトにトスが集まってもレフトが決めきれない、また他の攻撃カードを使えないことで連続失点をするという場面が多くみられた。これからの秋リーグに向けて、レフトが我慢して工夫を凝らして攻撃する、また勝負所でレフト以外でも攻撃できるようにカード枚数を増やすための練習を積み重ねなくてはならないと改めて感じる事ができた。

また、これから国際社会に出ていく1人の大学生として、今回の遠征は将来に向けて大きな糧となるものであった。大使館や三井物産の訪問を通じて、中国と日本の切っても切れない密接な関係があるということを知ることができ、日本と中国は敵対し合う関係ではなく、大切なパートナーであることを改めて実感することができた。また、中国の学生との意見交換をする際、相手が心からもてなしてくれるのかとても不安だったが、こちらが心配していたのが恥ずかしいほど彼らはフレンドリーに接してくれた。

日本で知る情報では彼らはとても反日の感情を抱いているという偏見を持っていたが、このたびの交流を通じてその考えが払しょくされた。改めて正しい情報の取捨選択の大切さを実感することができた。

以上のことは、自分や友人たちで海外旅行するだけでは得られるものではなく、部として、如水会やOBの方々、中国交流センター、日本大使館や三井物産の方々など様々な方面からのサポートがあったからこそ、私たちは素晴らしい経験をすることができた。このように部として行くことでしか得られない経験ができたということに大きな意義があると考える。

#### V、今後の展開について

今回の海外遠征で、自分たちが痛感したプレー、情報の取捨選択の大切さ両方の課題をそのままにすることなく、これからの練習や新潟合宿で、または自分たちの学習によって改善、向上していかななくてはならないと考える。

そして、この海外遠征をこれからも隔年で実行していきたいということを希望する。前述の通り、個人の旅行ではなく、一橋バレーボール部の遠征であるからこそ出来るような貴重な経験や出会いがあった。また、当初は、治安や衛生が悪く、部員同士で固まって、積極的に現地の人たちとコミュニケーションしないのではないのではないか、と

いう懸念もあった。しかし、実際に行ってみると、部員たちは人民大の学生や現地の方々と、自分の持っている言語能力でジェスチャーを用いながら積極的に交流していたと思う。また、2年に1度行うことが出来れば、1人の部員が2度交流を行う機会を持つことができ、1度目の反省を活かし次の遠征に生かすことができると考えるためである。

これからの学生生活や社会に出るための準備として今回の海外遠征はこれ以上ない経験となった。この経験をもっと深めていくためにも、また自分たちの代だけではなく、これから入ってくる代のためにも、今後海外遠征が継続していくことを強く望む。最後に今回の海外遠征のために様々なご支援をくださった、如水会の皆様、バレー部OBの皆様、人民大関係者の皆様、中国交流センターの志波様、賈申様、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

